

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 19 章 37～44 節 ＞

## 1 マタイ、マルコ、ヨハネが記さなかった内容から何を聞く？

全ての福音書がイエス様のエルサレム入城を人々が歓呼の声で迎えたことを記しています。しかし、ルカは歓呼の声を上げたのは「**弟子の群れ**」(37)だったと説明しています。イエス様はこの世的な王ではなく、この後起こる十字架の死によって私たちの罪を赦して下さる王でした。そのことを思うと、ルカの表現の意味が見えて来ます。今の私たちもどれだけ深くイエス様による神様の救いを理解できているか怪しいものです。しかし、だからこそ、神様はこうして聖書に向かい、本当に深く理解できる道を行くようにして下さったのだと思います。

## 2 「石が叫び出す」(40)が意味していることは？

イエス様が言われたこの言葉の意味も考えておきたいと思います。イエス様のエルサレム入城を喜ぶ人々の声を黙らせようとしたファリサイ人に言われた言葉ですから、人を黙らせても神様が為されることなのだから成ることは成る、ということがまずあるでしょう。そして、その成就の内容がイエス様の十字架の死によってもたらされたものであること、すなわち、私たちを「罪」から救い出して下さることであることまで考えておきたいと思います。同時に、「なぜ石か」、「石が叫び出すとは、どういう状態を考えているのか」が問題です。聖書は、人間が犯した罪を隠そう、隠せると思った時に他の被造物が語ると告げています（「**血が土の中から私に向かって叫んでいる**」創世記 4:10）。さらに、ルカ福音書だけが次に記している、エルサレムの将来を思って泣かれるイエス様の言動とも関係しています。

## 3 「わきまえる」(42,44)ことが今も必要とされている。

紀元 70 年、ローマと戦ったイスラエルは負け、エルサレム神殿は破壊されます。ルカは、「石が叫ぶ」を 44 節に記されたこの破壊の内容で考えているのです。ここでイエス様は、「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら」(42)、「神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである」(44)と、「わきまえる」ことの大切さを強調されています。戦争で明け暮れている今の世界の状況と重なりますが、救いがない訳ではありません。敵対し合う双方が共に神様によって造られて生かされている存在に過ぎないことをわきまえる(グノースコー:知る、気づく、理解する、認める)ときに戦いは終わり、平和が訪れ始めるからです。